# 教授 鈴木輝隆

**すずき・てるたか**
**江戸川大学社会学部現代社会学科**

**◆プロフィール**

「ローカルデザイン力から地域をマネジメントする」が研究テーマ。全国各地の地域づくりに関わるだけでなく、地域の自立には歴史や伝統を軸に、美意識のある「ローカルデザイン」が必要と考え、東京で毎月１回、学生と社会人と共に学ぶ「ローカルデザイン研究会」（現在、第96回）を主宰している。社会活動として、国土交通省「国土審議会政策部会」「国土審議会半島振興対策部会」の特別委員をはじめ、内閣府、総務省、農林水産省、経済産業省等の委員会の委員を歴任。財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」選考委員会委員長などを務める。今年８月８日から９月２日まで、これまで関わったローカルデザインを中心に、銀座松屋デパートで「ミツバチ鈴木展」が開催される。

## 若者の『素の力』が日本を育てる

### 〝ズル〟しないで素の力100％で生きていくこと

今後日本は、過疎化がもっと進み、里地・里山から人間がいなくなってしまう。これは日本中の問題でもある。いま、若い人が考えていかないと日本はこのような姿になってしまうという国のデータもある。決していい方向に向かっていないが、そのような状況下でも人間は生きていかなければならない。

昔から人間はいろいろな環境に適応して暮らしてきた。現代は文明の力を借りればなんでもできてしまう時代。しかし、〝ズル〟しないで人間の持っている素の力である、人間本来の能力を発揮することがなくなってきた時代に危機感を感じている。

### 若者の素の力が日本を育てる

社会の価値観を率直に受け止めて、自分たちの力を出すことを喜びと考える若者が増えている。自分たちで助け合い、〝ズル〟しないで生きていくことで信頼を生み出している。

### 客観性と説得力が大事

７人のプロデューサーに「参ったなぁ」というのが正直な印象。〝人〟こそが地域の財産であり資源である。

気持ちが熱いだけでなく全体が見えていて客観性を持ち合わせている。そして地域の人々の意識を変えることができる、説得力を持っている。若者に感謝するとともに勇気をもらった。

### 絶望を〝希望〟に変える

リレートークで若者たちが見せた「過疎自慢」。過疎化という絶望をユーモアという〝希望〟に変えて見せました。

地域の希望は見つけて成長させることで地域が輝き出します。理想を持つことをいつの間にか忘れてしまった現代に対し、未来に「希望を持つ」、「関心を持つ」ことを７人の若者が教えてくれました。そんな成果のあるフォーラムになりました。

寸又峡温泉開湯50周年記念まちづくりフォーラム

# 若者が地域を変える

## Event Report

6月30日(土)・7月1日(日)

寸又峡温泉は開湯50周年を迎えました。最盛期には15万人もの観光客が訪れた観光地ですが、バブル崩壊とともに観光客も減少していきました。そんな時、地元に元気を与えてくれる人に出会いました。それは「千年の学校」の原点でもある、山梨県早川町の辻町長です。

今までは先人たちに学んできましたが、今回はこの寸又峡をモデルに、山の観光地、中山間地域のこれからの生き方や人づくりと連携についてを若者から学ぶことを目的に開催しました。

若者が地域を変えるをテーマに、各地で活躍されている若者の視点から地域づくりや活性化を推進する方法のヒントや知恵をいただけたことに感謝いたします。

寸又峡まちづくりフォーラム
実行委員会　委員長　望月孝之

川根本町長　佐藤公敏

開湯50周年という節目の年に当たり、今までを振り返るとともにこれから寸又峡温泉をどう再生していくか、という議論を深めるためにこのフォーラムが開催されました。

今回は千年の学校設立当時から交流のある鈴木先生を始めとする、本町を応援していただいている皆さまにもお集まりいただきました。人のつながりに感謝いたします。

そして県内で活躍されている若者の力を借り、いろいろな形で今後もこの地域と関わりを持っていただいて、寸又峡温泉のこれから先の50年に向けてスタートするということを参加者全員で誓い合うことができ、大変意義のあるフォーラムになりました。